

問1 水にものがとけて、全体に広がり、すき通った状態になっている液のことを何といいますか。

問2 水の温度を変えたとき、一定量の水にとけるものの量はどうなりますか。

問3 ろ過したあとの液（ろ液）に、温度を変えずに同じ物質をさらに加えても溶けないのはなぜですか。

問4 温度を上げてつくったミョウバンすいようえきの水溶液を冷やすと、なぜミョウバンのつぶを取り出すことができるのですか。

問5 ホウ酸を限界まで溶かした水溶液すいようえきを冷やすと、ホウ酸が粒つぶとなって出てくるのはなぜですか。

問6 水を蒸発じょうはつさせて取り出す方法は、どのような性質をもつものを取り出すのに適していますか。

問7 液体の体積を正確にはかるために使う、目盛りめもりのついた細長い器具は何ですか。

問8 水に溶けている食塩のように、温度が変わっても溶ける量がほとんど変わらないものを、固体として取り出すにはどのような方法を使えばよいですか。

問9 ホウ酸を限界まで溶かした水溶液すいようえきから、溶けきれなくなったホウ酸を粒つぶとして取り出すには、水溶液すいようえきをどのようにすればよいですか。

問10 食塩を水に完全にとかした液体のことを何といいますか。

問11 水の温度が同じとき、50gの水に食塩が最大18gと溶けました。水の量を100gに増やすと、食塩は最大で何g溶かすことができますか。

問12 ものが水にとけた液のことを何といいますか。

問13 ろ過をするときに、液をガラス棒ぼうに伝わらせて注ぐのは、どのようにするためですか。

問14 水の温度を高くしたときに、水にとける量が大きく増える性質をもつ物質はどれですか。

問15 ろ過をして、溶けていない粒つぶを取り除いたあとの液体のことを何といいますか。

問16 ものの重さをはかるために使う道具で、使う前に何も載せていないときの表示を「0g」にするものはどれですか。

答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 水よう液	水にものがとけて全体に広がり、すき通った液のことを「水よう液」といいます。
問2	答え 水の温度によって、とける量はちがいます。	一定量の水にとけるものの量は、水の温度によって変化します。
問3	答え すでに物質が溶ける限度の量まで溶けているから	ろ液には、すでにその温度で溶ける限界の量まで物質が溶けているため、同じ物質をそれ以上溶かすことはできません。
問4	答え 温度が下がると、水にとけることができるミョウバンの量が減るから	温度を下げると、水にとけることができるミョウバンの量が減るため、とけることができなくなった分のつぶが再び現れます。
問5	答え 温度が下がった分だけ、ホウ酸が水に溶けきれなくなるから。	水溶液の温度が下がると、温度が下がった分だけ溶けきれなくなったホウ酸が粒となって出てきます。
問6	答え 水の温度が変化しても、溶ける限度の量があまり変わらないもの	食塩のように、水の温度が変わっても溶ける限度の量があまり変わらないものは、水を蒸発させて取り出すのが適しています。
問7	答え メスシリンダー	液体の体積を正確にはかるために使う器具はメスシリンダーです。
問8	答え 水を蒸発させる	温度が変わっても溶ける量がほとんど変わらない食塩などは、水を蒸発させることで固体として取り出すことができます。
問9	答え 水溶液を冷やす	ホウ酸を限界まで溶かした水溶液は、冷やすことで溶けきれなくなったホウ酸を粒として取り出すことができます。
問10	答え 食塩水	食塩を水にとかした水よう液のことを食塩水といいます。
問11	答え 36g	水の量が50gから100gへと2倍になっているため、溶かすことができる食塩の量も18gの2倍である36gになります。
問12	答え 水よう液	ものが水にとけた液のことを「水よう液」といいます。
問13	答え 液を静かに注ぐため	ろ過をするときにガラス棒に液を伝わらせるのは、液を静かに注ぐためです。
問14	答え ホウ酸	ホウ酸は、水の温度が高くなると、水にとける量が大きく増えるという特徴があります。
問15	答え ろ液	ろ過をして、溶けていない粒を取り除いたあとの液体のことを「ろ液」といいます。
問16	答え 電子てんびん	ものの重さをはかる道具を電子てんびんといいます。使うときは、何も載せていないときの表示を「0g」に合わせます。